

令和3年度 Faculty Development

「どんな講義・実習が学生を知的にワクワクさせているのか？」 開催報告

教員向け FD を以下の通り行いました。

1. 目的：
 - ・ 講義や実習を工夫するにはどのような方法があるのかを知る
 - ・ どのような講義や実習が学生を知的にワクワクさせているのかを知る
 - ・ 学生はどのような講義や実習から「多くの気づきを得た」と感じているのかを知る

2. 日時：令和3年12月16日（木）16:00～17:30

3. タイムテーブル：

時間	内容
16:00 (10分)	開会の挨拶、講師・ファシリテーター紹介 医療人育成・支援センターセンター長 主任教授 / 臨床医学教育研修部門 部門長 / 医学部整形 外科学講座 兼任教授 大谷 晃司
16:10 (20分)	講演① ～教育実践の共有～ 腎臓高血圧内科学講座 風間 順一郎先生
16:30 (15分)	全体意見交換 医療人育成・支援センター 助手 安田 恵
16:45 (20分)	講演② ～教育実践の共有～ 自然科学講座分子細胞生物学分野 松岡 有樹先生
17:05 (15分)	全体意見交換 医療人育成支援センター 講師 川井 巧
17:20 (10分)	全体 Q&A、総括 医療人育成支援センター 教授 亀岡 弥生
17:30	終了

4. 当日の様子

今回の FD は、Zoom を使用して完全オンラインで行いました。

はじめに大谷先生より開会の挨拶をいただき、ファシリテーターの紹介がありました。



続いて風間先生より医学部 2 年生向けに行われている講義「骨粗鬆症学総論」についてお話をいただきました。



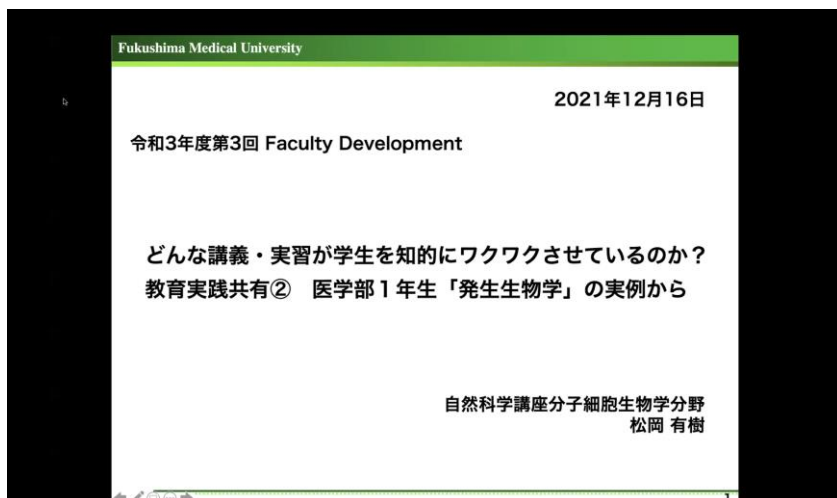
冒頭から音楽が流れます。導入として心肺蘇生に関する情報提供が行われ、そこから骨粗鬆症の授業に入っていきます。学生が誤解しやすいポイントを一つ一つ提示し、それについて風間先生のインパクトのある解説が続き、授業が展開されていきます。voiceloid というキャラクターによって複数の声色が聞こえることで、緩急のついた講義となっており、聞いているだけであたかも対話に参加しているかのような感覚に至ります。最後には、学生に答えられるようになってほしいことを箇条書きで示されていました。

次に安田先生のファシリテーションで全体討議を行いました。



どのようにスライドに音声を入れるのか、音声を入れるうえでの注意点、などを共有いただきました。また、臨床実習においては身体所見の取り方の指導を重点的にされているとのことでした。昔の先生方の打診のスキルは高かったこと、学生同士で身体所見をとる上での工夫などもお話していただきました。風間先生は 50 分の講義では作成スライドが 200 枚を超える、とのこと配布資料はエッセンスにして渡されている、とのことでした。また、双方向的な講義を意識されている理由として、以前他大学で行っていたクルズスの影響が大きい、というお話も共有していただきました。

続いて、松岡先生より医学部 1 年生向けに行われている実習「発生生物学」についてお話をいただきました。



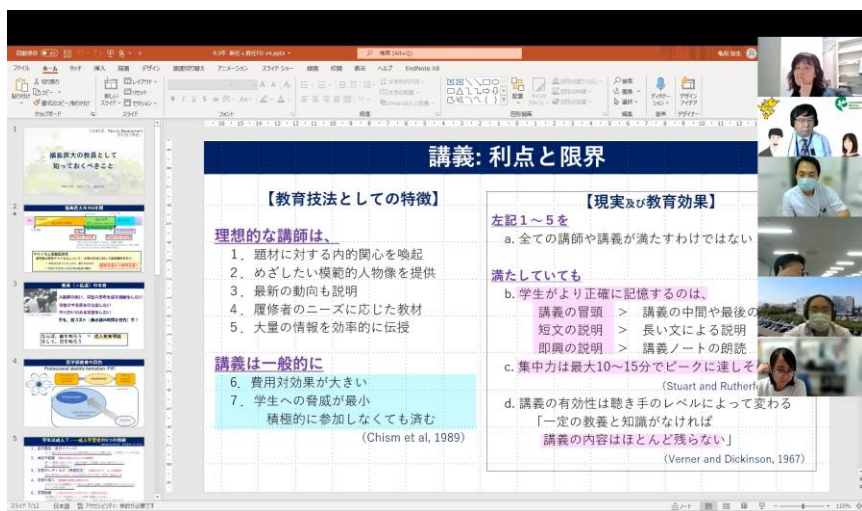
高校で生物を習っていない学生に対しての remedial 教育の一環として、どのように発生生物学を教えているか、という点について情報提供をしていただきました。本実習では、「サンプルはできるだけ身近なものを使う」という松岡先生のポリシーのもと、福島市で採取されたカエルの卵塊を使用されているそうです。学生も身近なものを使うことでやる気ができるのではないかとのことでした。グループ内で学生同士が教え合う、ということで学習効果が上がっていることを実感されている、ということも教えていただきました。

次に川井先生のファシリテーションで全体討議を行いました。



高校生物の内容はとても進化していること、学生にネガティブなフィードバックをする際は、良いところも一緒に伝えるようにされていること、などを共有していただきました。学生からは「優しい顔してズバツと切る松岡先生」と言われたことがある、とのことでした。また、学生が提出するスケッチについて、良いところと努力が必要なところを赤ペンで書きこみ、一人一人の学生に返却されているということでした。大変な時間と労力がかかる作業かと思いますが、そのような評価方法を長年継続されておられる理由についてお聞きたところ、ご自身が学生の頃に提出したレポートに評点だけについて返ってきた時に、なんとなく腑に落ちなかったから、というお答えをいただきました。ほかにも、教育心理学とサイエンスとのつながりなど、様々なお話をいただきました。

最後は亀岡先生より全体 Q&A、総括をいただきました。



「動」の風間先生と「静」の松岡先生のお二人に共通する点として、「強く熱いメッセージを持っている」ということ、そして「そのメッセージを伝えるために綿密な準備をされている」ということ、の2点を挙げられて総括いただきました。

5. 参加者アンケートより

当日は 59 名の方にご参加いただき、55 名の方から事後アンケートの提出がありました。(回収率 93.2%)。

参加者からのコメントの一部を抜粋します。

風間先生のご講演に対して

- 内容を理解させる工夫が随所にあり参考になりました。
- ボイスロイドを使用してインパクトのある講義であった。風間先生がこのシステムを使用する理由の一つとして、情報提供をしているニュース番組のことを取り上げられており、確かにそうだと納得した。今後、情報番組などを見る際に、提供方法などを学び取りたいと感じた。
- 学生の集中力を切らさずに、伝えたいメッセージを効率的に伝えるための具体的なノウハウについて知ることができました。ご自身も楽しんで取り組まれているのではないかなと思いました。
- 他の先生の講義を拝見する機会はほとんど経験がなかったので、とても新鮮でした。ボイスロイドとの会話も興味を引きました。
- 逆説的話を組み合わせて、飽きないような話の流れであった

松岡先生のご講演に対して

- 実習やフィードバックにどれほど時間を掛けられているか知ることができ、刺激になりました
- 学生のレベルを把握し、その上で話す内容を設定するのはすごいと感心した。先生が、学生時代に受けられた教育心理学のような講義を受けてみたいと感じた。
- 教育法自体を系統だって学んだことがなかったので、基本の基本かもしれませんが、アンケートからはじまり、PDCA サイクルを回しながら常にアップデートされていることは勉強になりました。また、実習のあと時間をおかずに学生にフィードバックしている点は、授業時間の関係で可能であれば導入したいと思いました。
- 静かな語りの中に構成された講義、学生に向き合う真摯さを感じました。
- 自分が学生の立場だったら、先生の穏やかな雰囲気は、己の理解者となってくれそうだと期待を持てる気がしました。

日ごろ、ほかの先生がされている講義や実習を見る機会はなく、また、ほかの先生から自分の講義や実習に対して意見をもらう機会もあまりないかと思います。参加者アンケートの回答からは、他者の教育実践から、自分の教育実践を見直してみると、見えてこなかったものが見える可能性がある、と感じました。運営に対しても沢山のご意見をいただきました。皆様のご意見を参考にさせていただき、医療人育成支援センターでは今後も様々なFDを企画し、挑戦していきたいと思っています。

文責 医療人育成支援センター 及川